

3本爪の電動義手発売

来月 構造簡素化し低価格化

医療用品メーカーのダイヤ工業(岡山市南区古新田)が、奈良先端科学技術大(奈良)などと共同開発していた電動義手が完成した。軽量物をつかむ機能に特化した3本爪タイプで、構造

ダイヤ工業

を簡素化したことで価格を10万円(税抜き)に抑えた。来月1月から国内で発売し、年間100本の販売を目指す。同社が義手を手掛けるのは初めて。

肘から手の先を補う爪部分は滑りにくいゴム素材で、装着した上腕部に力を入れたり抜いたり、コップ、ペンなどたりすると、内部のセンサーが筋肉の隆起・かむことが出来る。樹脂製で長さ約40センチで爪を駆動させる。長さ38センチ。

基本構造は奈良先端科学技術大が考案し、同社が装着部分の形状や、固定に用いるペルット状サポーターを開発。東京大産産技術研究所(東京)の山中俊



ダイヤ工業が来月1月に発売する電動義手

た。ダイヤ工業は「普及には、国ごとに異なる規格への適合や腕回りのサイズの違いに対応する必要がある。製品のバリエーションを増やし、より使いやすい製品に進化させていく」としている。

同社は1963年設立、資本金1千万円、売上高34億5400万円(15年3月期)。従業員はパートを含め約100人。(伊東圭一)

基本構造は奈良先端科学技術大が考案し、同社が装着部分の形状や、固定に用いるペルット状サポーターを開発。東京大産産技術研究所(東京)の山中俊脂部品を造ることでコストを抑えた。同社は2013年から共同開発に参画。今年10月にドイツと韓国で開かれた福祉機器見本市に出展したところ、低価格で扱いやすい点が評価された。将来的に欧州や韓国への販売も視野に、耐久性やサポーターの固定力などを改良してき